

創立50周年を迎える兵庫県日本ロシア協会

戦前から戦後 日ソ親善協会時代

兵庫県下で日ソ（日ソ）親善運動が始まったのは、戦前「ソヴェート友の会」からですが、当時の軍国主義時代の情勢の中で、1936年頃には活動を停止しています。

神戸には、1925年まで帝政ロシアの領事館が、1925年から1938年まではソ連領事館がありました。

1949年秋には、戦後ソ連に抑留されて帰国した人々や、戦前から社会主義に関心を持っていた人々を中心に「日ソ親善協会神戸支部」が結成され、活動を開始しましたが、翌年、朝鮮戦争が始まり、レッドパージなどもあり、約1年間で事実上、活動を停止しています。日ソ親善協会の再建に取り組んだのは、鎌本慶男氏と神戸港に入港するソ連船の若い乗組員から「バーシカ・ハヤシ」と慕われた林寿美さんでした。

1952年秋から、三浦清一氏（県会議員、左派社会党

兵庫県連会長）が理事長を引き受けられました。賀川豊彦氏と親しかった三浦氏は牧師で、社会事業家で、光子夫人は石川啄木の実妹でした。1962年7月、急病で倒れたその日まで、日ソ友好のために尽力されました。

「日ソ親善協会神戸支部」は、困難な状況の中で、ソビエト映画の上映、講演会の開催、ロシア語の普及など、活発に活動し、日中・日ソ国交回復兵庫県民会議（会長・三浦清一氏）を結成し、国交回復のために努力しました。

親善協会時代に、中井一夫氏（衆議院議員、元神戸市長）、五島虎雄氏（衆議院議員）など、各界の協力が得られるようになりました。

日ソ国交回復・日ソ協会兵庫県連の誕生

1956年11月に日ソ国交回復が実現し、翌年4月には、イリヤ・エレンブルク氏が来神し、坂本勝兵庫県知事、画家・小磯良平氏など各界の人々による歓迎委員会の主催



兵庫県連創立記念 辻久子バイオリン演奏会（1958年）

で、講演会・歓迎会が盛大に行われました。

1957年1月、「タカシロク号」がソ連からの第一船として神戸に入港し、その後ソ連船の入港も数多くなりました。春・秋には観光船も入港し、船上での楽しい交流会やスポーツの親善試合もまた数多くなりました。

1958年4月17日には、政界、学会、財界、文化人、宗教家など、文字通り各界の人々によって、「日ソ協会兵庫

県支部連合会」が創立され、会長に小林芳夫氏（神戸証券取引所・理事長）が選ばれました。創立総会の翌日、辻久

子副会長の無償出演による記念コンサートは、新築の神戸国際会館大ホールを満席にしました。

その後2年半の間に、県連主催でM・ロストロポフピッチ、L・コーガン、E・ギリスと世界を代表する音楽家のコンサートを開催することができました。

1960年に、全国的に小児マヒが発生し、神戸市内でも108名、県下では170名となりました。この時、日

ソ協会兵庫県連はソ連製生ワクチンで子供たちを守るために、県下の有力な20教団体と「兵庫県小児マヒ対策協議

会」（会長・三浦清一氏）を組織して、全国の人々と協力して、1962年2月、ソ連から10万人分の生ワクチン輸入を実現しました。

再び困難な時代

1963年8月、米ソ英3国の間で部分的核実験中止条約が結ばれました。この条約の締結を機に、ソ日協会などソ連側の関係団体と日ソ協会の意見の相違が始め、1964年秋に訪ソした日ソ協会の役員に対して、ソ連側から

「我々は自分でパートナーを選ばない権利がある」という発言があり、日ソ親善運動の全国的な分裂が始まりました。この時期に尾崎治兵庫県連副会長（県議、県総評議長）がソ日協会の招待で訪ソしまし

た。尾崎副会長の帰国後、連日のように協会の活動の基本方針について話し合い、全国的に組織分裂が進む中で、兵庫県では統一を守ることで、引き続き、積極的に親善交流活動に取り組んできました。しかしこの時、日ソ親善

運動に確信を持つことのできない役員や活動家も出て、約1000名の会員が大幅に減少しました。

この様に親善交流を進める一方で、ソ連の人々に友人として言うべきことは率直に言い、次第に信頼関係を深めてきました。

1969年に兵庫県は、日本の府県としては初めて、ハバロフスク地方と友好提携をし、1974年には、神戸市とラトビア共和国の首都リガ市が姉妹都市となりました。協会はこれらの提携の準備段階から一貫して協力してきました。

また、1977年から2007年までにハバロフスク、リガなどへ送った友好訪問団参加者は919名に達し、1985年から1999年までにハバロフスクの青少年キャンプへ11回、197名の県下の小中学生を送りました。

1998年8月の兵庫県日本ロシア協会創立40周年記念祝賀会で、貝原俊民兵庫県知事は、「兵庫県日本ロシア協会

は、1958年に日ソ協会兵庫県連として発足以来、協会の分裂、そして阪神・淡路大震災との遭遇など、この40年の道程は、決して平坦ではな

かったと思います。その困難にも拘わらず、大震災の直後に二度のチャリティーコンサートを開催し、サハリン大地震の支援を行うなど、国民どうし相互理解を深めるための活動を休止することなく、創立40周年という記念すべき年を迎えられたことに、心から敬意を表します」と述べられました。

また、G・コマロフスキー総領事は、「私にとって、兵庫県の協会は、大変深い関係があります。38年前に、フェドレンコ大使に同行して神戸にきたのが、あなたの方の協会との最初の出会いです。それ以来、いろいろと難しいことがありましたが、あなた方は、どんな困難な時にも、いつも変わらぬ友好的な態度で、私たちに接してくれました」と述べられました。

日ソ協会兵庫県連は、19

90年3月神戸国際交流賞を受賞しました。

日ソ協会兵庫県連から 兵庫県日本ロシア協会

1991年ソ連邦が解体したのに伴い、日ソ協会本部は、日本ユーラシア協会と改称。1992年8月日ソ協会兵庫県連は「兵庫県日本ロシア協会」と改称し、心新たに新しい一歩を踏み出し、ラトビア共和国のリガとは、神戸リガ友好委員会として、従来どおりの交流を進めています。



2008年に来日する
ロシア民族アンサンブル「コロベイニキ」

天皇夫妻のラトビア訪問前にして、日本を紹介するラトビアテレビの取材に協力。8月には、リガ親善訪問団の派遣など多彩な行事を行いました。

現在、協会は次のような行事に取り組んでいます。

第12回ロシアを知る会「日本とロシアの経済について」11月1日。ロシア人墓地への墓参り調査、11月12日。第24回ロシア料理教室11月29日。ロシア料理を楽しむ会12月5日。08年新年もみの木まつり1月26日。兵庫の中のロシアを訪ねる小ツアー（高田屋嘉平衛の足跡、堀江オルゴール館）。ロシア民族音楽アンサンブル「コロベイニキ」の県下公演（10月）。

現在、兵庫県日本ロシア協会には、7つの自治体と2つの友好議員連盟と県国際交流協会から役員が出ており、5つの政党の議員・役員が会員として活動しています。

1994年にはキワニス賞を受賞しました。